

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年、職員全員で「理念」について見直しを行ない、意見や案を持ち寄り検討し、前回のものに加筆するといったものになった。		職員全員が「理念」について理解し、共有できるように取り組んでいく。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員各自に理念を覚えてもらい、入居者と行動する際の基本として常に考えるように声掛けている。		理念が形だけにならないように常に念頭におく。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	各館玄関付近の見やすい場所に掲示し周知に努めている。家族会や運営推進会議の場で理解や意見がもらえるように話をしている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所に人家がほとんどないが、気軽に寄ってくださるように声掛けなどを行なっている。限られた人ではあるが立ち寄ってくれる。もっと多くの方に遊びに来てくださるように心がけている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	福津市の行事やイベントにはできるだけ参加しているが、地区の行事などにはあまり参加できていない。		地元の人と交流を多くする為、積極的に地区の行事などに参加していけるように働きかける。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	見学や遊びに来て頂ける事は喜んで受け入れているが、その他の活動についてはまだ話し合いもできていない状況である。		入居の方に配慮しながら、できるだけ老人会等への施設開放し交流の機会を増やしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価について意義を理解するまでに到らず、評価を生かして具体的な改善に取り組んでいるのはわずかです。		ミーティングや会議において自己評価や評価内容を話し合い、問題点の改善を図っていく。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催回数が少なく、意見などもあまりないがサービス向上になればと思い、積極的に意見は取り入れている。		外部・地元の方にグループホームを知ってもらい、お互いの活性化の会議になればよいと思います。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所主催の講演や会議、話し合いやイベントにはできるだけ参加している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用者入所中である。		職員各位で学ぶ事はあるが事業所の支援に基づく勉強会は、ほとんど機会がないので多くしてほしい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	昨今ではメディア等を通じてよく報じられており、常に注意を払っている。又、研修への参加を行ない、意識を高めている。		職員全員が研修や勉強会を活用し、学べるようにする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>丁寧に、誤解をまねかないよう説明を行う。確認をしながら進めている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>話がしやすい雰囲気作りやこちらから投げかけることで思っていることを言って頂けるように配慮している。不満や苦情があれば検討し、研修なども含めた対応を行なっている。</p>		<p>もっとよりよく話が聞けるような工夫をしていくつもりです。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会などで来られた際にお話をしている。特別に変わったこと(心身状況の急激な変化・病気や受診など)がある時には電話連絡をしている。職員の異動等についても報告するようにしている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>本館の玄関先に意見箱を設置し、ご契約時などで説明している。いつでも意見が言って頂けるようにお会いした時には声をかけるようにしている。不満や苦情があれば検討し、研修なども含めた対応を行なっている。</p>		<p>意見箱の活用を呼びかけると共にご家族との信頼関係の構築を考えていく。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1回の各館でのミーティングに参加し、意見や提案を聞くようにしている。</p>		<p>なるべく多くの意見や提案をもらいできるだけ反映させていきたいと考えている。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>現在は早出・遅出などなく日勤と夜勤の2交代であるが状況の変化などには柔軟に対応していくよう話し合っている。</p>		<p>職員の確保も含めて必要があれば柔軟に対応できるようになっている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>出来る限り異動や離職がないようにと考えている。利用者の方については話などのタイミングが難しいですが、配慮はしているつもりです。</p>		<p>出来るだけ、職員の希望に沿った勤務体制で異動や離職がないよう働きやすい環境作りをしている。</p>
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>性別や年齢などによって採用対象から排除されることはない。職員が自身の生活も含めて働きやすいように休暇などについては配慮している。</p>		<p>生き生きと働いてもらう為に、採用時については仕事や雇用についてきちんと理解してもらうようにする。</p>
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>委員会活動や研修に参加するを行なっている。理念でも「その人らしく」と謳っており、人権尊重をも含むものとしている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人外の研修について希望者又は人選して参加をしている</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は同業者等と接する機会はあるが、他の職員は個々の付き合いでしか接する機会はない。</p>		<p>同じ地域内のグループホーム同士、職員の交流や勉強会をやっていきたい</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>話せる環境作りに努めている</p>		<p>管理者による定期的な個人面談を実施している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年齢により正職員に当てはまらない時は準職員としての雇用を考えてあり、対象者があれば理事長へ推薦できる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	電話で話すだけでなく、できればお会いして話が出来るようにしています。落ち着いた環境でご本人からよく話が聞けるようにあまり口を挟まず傾聴に努める。		利用される前には体験利用などができるように話し合っている。
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	ご家族の思いを聞き、心情に配慮したお話をするように職員全員が気をつけている。ご家族がいつでも気軽に相談などができやすい雰囲気をつくる。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族のご希望などを踏まえ、現時点での考えるサービスを提案したり、施設の紹介を行なっている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	些細な事でも職員同志で話し合い必ず家族に相談し、利用者本人の様子に合わせたサービス提供に心掛けている		サービス内容が職員の意見や考えに片寄らないように必ずご家族とも相談しながら工夫していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩であるとの気持ちで接し、人生経験などの話を聞いたり、調理や掃除・花の植え方などを教えてもらっている。お互いに学ぶつもりで一緒に過ごしている。		何を行なうにしても職員の都合・中心になるのではなく、常に利用者中心であると心がける。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	施設の行事があるときには準備の段階から一緒に手伝って頂いているご家族もある。面会時に現在の状態を説明し、ご家族の意見も聞いている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	必要な時は、いつでも電話で家族と話しが出来るように支援する。呼びかけを行ないより多くの面会などを勧めている。ご本人・ご家族双方の不満などを聞きコミュニケーションが円滑にいくように配慮をしている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者本人の知り合いや友達はもちろん家族も共にホーム内で時間を過ごしたり、ご希望があれば宿泊もできている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	広い縁側やリハビリなどで自由に過ごせるようソファがあり、ほとんど毎日談笑したり歌ったりと時間を過ごす。レクリエーションや体操などをする時には一人でも多く参加できるように声をかけている。利用者同志の話をしている時は、聞く方に時々口をはさむ程度でおさええている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所先によってお会いできる機会があれば関われるようにしているが、あまり機会がない。		退所された家族が立ち寄ってくれることがあるが、こちらからのおつきあいも努めていきたい。
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ひとりひとりの訴えや意見を受け入れ尊重し本人らしい暮らしが出来るよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接や入居時に本人、又は家族から詳しく聞くようにしている。		生活歴や馴染みの暮らしがますますケアに反映できるように書類の整備を行なっていく。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	それぞれに状態は違うので同一のものだけでなく、個々の対応・時間の過ごし方を重視している。バイタルチェックなどの時に会話をすることで現在の状況などの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	意見やアイデアを反映した介護計画を作成には努めているが、介護計画の作成が間に合っていないことがある。		その時々でご本人にとって必要なサービス提供を職員間・ご家族共、共有できるように介護計画の作成を滞らないものにする。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	新たなサービスの必要性が生じたときには速やかに計画内容を変更するようにしている。が、介護計画の作成が間に合っていないことがある。		その時々でご本人にとって必要なサービス提供を職員間・ご家族共、共有できるように介護計画の作成を滞らないものにする。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録としてカルテは詳しく記入している。又、申し送りノートを作成し、情報を共有できるようにしている。		情報を共有し実践することで職員の前向きな意見やご家族への報告・提案など経て介護計画の見直しをしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時の状態やご家族などの希望に合わせて事業所の変更は可能であり、必要な支援を行なっていく。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティア、消防関係の方には支援の依頼をしている。		多方面に呼びかけを行なっていくことで、個々の支援の幅を広げていきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性があるときには支援をしていく体制を取っている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働は行なったことはない。		地域包括支援センターの役割や活動状況をもっと知るよう に務めます。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族が信頼している医療機関に今後も受診していただけるように支援している。疑問や分からないことなどは看護師や管理者を通してかかりつけ医に連絡している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ご家族などから相談があった時などは2～3の医療機関の情報を提供している。又、受診時には希望があれば付き添いも行なっている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在ホーム内に看護職は1名。バイタルチェックや主治医との連絡、受診の付き添いなどをしてもらっている。又、母体N CのDrや看護師の協力支援を得られる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>病院の相談と連携を取りホームのケアマネージャーや職員に状況説明をし早期退院に向けての話し合いを行っている。退院前のカンファレンスにはご家族と同席させてもらい、注意事項などの確実な連絡に努めている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>運営の方針として終末期に向けたグループホームのあり方は出ていない。</p>		<p>ターミナルケアにおいての方針を明確にしていく必要がある。</p>
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>現時点においては終末期の方を受け入れる話し合いまでは出来ていない。重度化した方についてはご本人・ご家族の意向に添う形を取るべく検討している。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>家族とよく話し合い、利用者本人にとって望ましい所に移れるよう支援している。本人主体の考えで家族へ理解を求めるための説明をしている。家族面会時に日頃の状態、特に変わった点など説明しておく。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>カルテ等を人目につく所へ放置しないようにしている。一人一人の人格を尊重し、尊敬の気持ちを持って誇りやプライバシーを損なわない対応を行なっている。</p>		<p>職員同士の会話を入居者の方に聞かれないように、又、不快に思われることないように配慮していく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一度に多くのことは言わないようにしている。利用者が納得できるようゆっくりと説明し、嫌がられる時は無理強いしない(外出の支援など)。家族に依頼する事もある。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の行事などはなるべく作らず、利用者のペースに合わせた活動などを タイミングを見て行っている。時間をもてあまされているような時にはゲームやカラオケ、散歩など職員と一緒に実施している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	母体施設「NCケア」にて月2～3回の理美容を利用し、支援している。又、ご本人の望む店がある方には 家族の方と相談し、送迎をしたり、連れて行って頂いたりしている。ご希望する化粧品やシャンプーがあれば購入し、対応している。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方の状況などをみながら、食事の下準備や片付けをしている。食事は同じ物を同じところで食べ、声掛け・見守りなどしている。各個人にあった食事形態の提供ができる。(カユ・キザミ・トロミ等)		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	冷蔵庫・ポットなどの持ち込みが可能です。希望の飲み物の常備も行なっている。タバコは特定の場所で吸って頂くことで援助している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツの使用はない。さりげない声かけにてトイレ誘導の必要な利用者は個別の排尿パターンに合わせ紙パンツを使用したり、他利用者に気づかれぬよう配慮している。利用者の排尿パターンや出来ることを把握し、失敗を減らす・自分で処理できるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回(月・水・金)を入浴日としているが利用者の希望やタイミングに合わせてゆっくり入浴できるよう支援している。入浴日以外でもご希望があれば入浴が可能である。		浴室をもう少し縮小して欲しい…冬は寒い
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人自分のペースで過ごし自由に休息できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	トランプやカラオケ、ごく簡単なゲームなど縁側での会食、談話、畑・公園への散歩など行なっている。料理の下ごしらえの参加、鉢植の水やり等にも参加してもらっている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	見守りがあれば、支払いが出来る利用者には、ショッピングの時に財布を渡し、自分で支払いができるよう支援している。自己管理の出来る方は自分で、他の人は支払時本人に渡し精算され、その後預かる。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ショッピングや野外活動ド、ドライブなど以外にも時に応じ、買い物希望されれば、連れて行き自分で選んだり出来るよう支援している。 (膝、腰の痛み等で希望する回数の減少もある)		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日帰り旅行か一泊旅行を企画し実施しようとしたが、中断することがあった。		年に一度 日帰り旅行か一泊旅行を計画したい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて家族等と電話で話したり、手紙を書いたりする支援をしている。電話の使用はいつでも可能だが時間帯によっては遠慮して頂く事もある。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも自由に来所でき、本人の部屋などで過ごせるよう工夫している。会話の場所は利用者・ご家族にまかせている。宿泊も可能である。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会があり、定期的開催している。どういことが身体拘束にあたるか職員は理解している。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	どの部屋も鍵はかけない。玄関、隣の館への出入りは自由になっている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間 自室で過ごす事の多い人には職員が1～2時間おきに様子観察をおこなって、安否を確認している。夜間の定期的な巡回を実施し、安全確認を行っている。夜間は夜勤者1名となるので特に照明、音に気をつけ、確認をしている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の納得の上で裁縫道具など 預かっている。必要な時は職員と一緒に使用している。危険なものは使用後に確実に返してもらい管理している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	食材料の切り方、薬の配分、喫煙場所の設定及び確認などを日頃から気をつけている。玄関は出入りのたびにチャイムが鳴るようになっている。外に出られる利用者には職員が付き添い散歩をして、気分転換を図ってもらう。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急の連絡網は整備しており、連絡により関係職員が対応しているが、全職員に対する定期的な訓練等は実施されていない。		急変・緊急時に慌てないように繰り返し練習し、身につけておくようにしたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年1～2回程度実施。シフトの関係で全員参加は出来ていない。近隣が離れている為、母体施設への協力を依頼している。		運営推進会議においても火災の心配などの質問があった。消防計画書の整備・消防との総合訓練を年2回実施するように義務付けられているので、今後は地域の方々と協力しあえるようにはたらきかけていく。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	状態に変化がみられる場合、職員同志でもよく話し合い、家族の方にも説明し、対応策を考えている。ご家族への連絡は特定の職員より誤解のないように責任を持って伝える。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	看護・介護職員で連携・情報の共有を図り、速やかに責任者に連絡や「かかりつけの医師」と連絡をとり対応している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の表はカルテに綴じて内容の確認をし、誤薬がないように利用者一人ひとりに確実に手渡し・服薬の確認を行なっている。服薬後の状態の変化にも気をつけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	なるべく多く水分摂取して頂く、野菜などを多く使った食事の提供を心がけている。リハビリ体操などの運動を朝・夕に取り入れ呼びかけている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝・夕食後は職員が必要に応じて介助にて歯磨き等を支援している。昼食はうがいの援助を行なっている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に1回体重測定を行ない、栄養の目安としている。食事はチェックできているが、水分量は普段のチェックは行なっていない。一人一人の習慣に合わせてお茶をペットボトルに入れて渡したり、湯をポットに入れて居室に置いたりしている。		体操・入浴・レクなどの後になにかにつけ水分摂取をもらっている。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防のマニュアルを職員全員が目を通しミーティングの際に話し合っている。11月～3月までは「インフルエンザ」「ノロウイルス」等の予防の為、うがい・手洗いの励行、手すりや上履きなどの消毒の徹底を行なっている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や包丁も、肉と野菜に分けている 栄養士を中心に新鮮で安全な食材を使用するよう努めている。食材は地元の市場を中心に購入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	プランターに季節の花など植え配置したり、明るい雰囲気になっている。すぐ横に農園があったりと緑の環境に恵まれている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・廊下・食堂・リビングなどゆったりとした広さがあり、縁側からは中庭のプランターなどに季節ごとの花などが楽しめるし、自由に入出入り出来る。換気や温度に気をつけている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆が集まって談笑できるようにソファを配置している。マッサージチェアも置いているので一人でゆっくり過ごされることも可能。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやテレビ・冷蔵庫・コタツなど今まで使っていた物や、家族の希望される物など持込は自由である。入居時には今迄使用されていたものを持込まれるよう家族へ依頼している。なるべく自宅に近づけるように配慮している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度調節もこまめに行い外気温と大きな差がないようにしている。 気になるような臭いがある時は換気したり、芳香剤を使用したり不快感がないようにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内、トイレ、廊下、全てにおいて手すりを設置し、段差も少ない。備え付けのベッドは固定で高さなどの自由はきかない。畳などの活用もある。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	できる限り自分でして頂くことをすすめ、失敗や混乱があっても過剰に反応せず、取り除くのではなくどう支援するのかを職員は考えている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの周りを散歩したり、中庭の花を楽しんだり自由に活動できる。時々中庭でおやつを食べたりもする。利用者の好きなものを植えてもらい管理も出来るだけまかせる。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・「その人らしく」を尊重し、毎日を安心して楽しく過ごせるように支援している。
- ・みんなと一緒に笑い合える、助け合える暮らしの応援。